

# 全国財務局管内経済情勢報告の概要

令和2年4月27日

財務省大臣官房総合政策課

# 全国財務局の管内経済情勢報告のポイント①

## 1. 今回（2年4月判断）の各地域の経済情勢

- 「総括判断」は、新型コロナウイルス感染症の影響により、全地域で「下方修正」。


（注）各財務局の経済情勢のポイント

前回(2年1月)と比較すると、新型コロナウイルス感染症の拡大により、世界経済への影響やサプライチェーンを通じた生産活動への影響、自粛等によるサービス業への影響をはじめ、様々な経済活動に影響が生じている。

- ・「個人消費」及び「雇用情勢」について、全11地域で「下方修正」。
- ・「生産活動」について、10地域(東北、関東、北陸、東海、近畿、中国、四国、九州、福岡、沖縄(観光))で「下方修正」。

## 2. 今回の全局総括判断

- 地域経済に関する各財務局の報告では、
  - ・ 個人消費は、感染症の影響により、足下では、スーパーやドラッグストア販売が好調である一方、百貨店やサービス業等では急速に減少している
  - ・ 生産活動は、サプライチェーンの乱れや世界的な需要減少等の影響を受け、足下では輸送機械等で減少している
  - ・ 雇用情勢は、改善してきたが、足下では感染症の影響がみられ、一部で弱い動きとなっているなどの報告がされているところ。
- これらを踏まえ、全局総括判断については、「回復している」から「足下で急速に下押しされており、極めて厳しい状況にある」へ下方修正した。

前回（2年1月判断）	今回（2年4月判断）	前回との基調比較
生産に弱さがみられるものの、 <u>回復している</u>	新型コロナウイルス感染症の影響により、経済活動が抑制されるなか、 <u>足下で急速に下押しされており、極めて厳しい状況にある</u>	 (下方修正)

(注1) 2年4月判断は、前回1月判断以降、4月に入ってから足下の状況までを含めた期間で判断。

(注2) 各財務局は企業へのヒアリングを主に3月中旬から4月中旬にかけて実施。

(注3) 下線部が基調判断。

# 全国財務局の管内経済情勢報告のポイント②

【参考1】各地域の「総括判断」の比較 ※ 「全局総括判断」は、平成24年10月判断以来、30期（7年6カ月）ぶりの下方修正。

	元年10月判断		2年1月判断		2年4月判断	
全局	回復している	→	生産に弱さがみられるものの、 回復している	→	新型コロナウイルス感染症の影響により、経済活動が抑制される なか、 <u>足下で急速に下押しされており、極めて厳しい状況にある</u>	↓
北海道	緩やかに回復している	→	緩やかに回復している	→	新型コロナウイルス感染症の影響により、経済活動が抑制され、 <u>足下では観光が悪化がみられるなど、極めて厳しい状況にある</u>	↓
東北	回復しつつある	→	回復しつつある	→	新型コロナウイルス感染症の影響により、経済活動が抑制される なか、 <u>足下で大きく下押しされており、厳しい状況にある</u>	↓
関東	生産の一部に弱さもみられるが、 回復している	→	生産に弱さがみられるものの、 回復している	→	新型コロナウイルス感染症の影響により、経済活動が抑制される なか、 <u>足下で急速に下押しされており、極めて厳しい状況にある</u>	↓
北陸	拡大に向けたテンポが緩やかに なっている	↓	拡大に向けたテンポが緩やかに なっている	→	新型コロナウイルス感染症の影響により、 <u>弱い動きとなっており、足 下ではさらに下押しされ、厳しい状況にある</u>	↓
東海	緩やかに拡大している	→	拡大の動きに一服感がみられる	↓	新型コロナウイルス感染症の影響により、経済活動が抑制される なか、 <u>足下で急速に下押しされており、極めて厳しい状況にある</u>	↓
近畿	緩やかに拡大しつつある	→	緩やかに拡大しつつある	→	新型コロナウイルス感染症の影響により、経済活動が抑制される なか、 <u>足下で急速に下押しされており、極めて厳しい状況にある</u>	↓
中国	生産の一部に弱さもみられるが、 緩やかに回復している	→	生産に弱さがみられるものの、 緩やかに回復している	→	新型コロナウイルス感染症の影響により、経済活動が抑制され、 <u>足下で急速に下押しされており、厳しい状況にある</u>	↓
四国	緩やかに回復している	→	緩やかに回復している	→	新型コロナウイルス感染症の影響により、経済活動が抑制され、 <u>足下で下押しされた状況にある</u>	↓
九州	緩やかに回復している	→	緩やかに回復している	→	新型コロナウイルス感染症の影響により、経済活動が抑制される なか、 <u>足下で急速に下押しされており、厳しい状況にある</u>	↓
福岡	回復している	→	回復している	→	新型コロナウイルス感染症の影響により、経済活動が抑制される なか、 <u>足下で急速に下押しされており、厳しい状況にある</u>	↓
沖縄	拡大している	→	拡大している	→	新型コロナウイルス感染症の影響により、経済活動が抑制され、 <u>足下では観光が悪化がみられるなど、極めて厳しい状況にある</u>	↓

## 【参考2】

- ・ 月例経済報告(2年4月)

「景気は、新型コロナウイルス感染症の影響により、急速に悪化しており、極めて厳しい状況にある。」

- ・ 日本銀行「当面の金融政策運営について」(2年3月)

「わが国の景気は、新型コロナウイルス感染症の拡大などの影響により、このところ弱い動きとなっている。」

(注1) 下線部が基調判断。

(注2) 矢印は、前回との基調比較。

## 3. 個人消費、生産活動、雇用情勢に関する特徴的な動向

### （個人消費）※全11地域において「下方修正」

- スーパー販売は、感染症の影響により、冷凍食品を中心とした飲食料品に加え、トイレtpーパー等の紙製品が好調。
- 百貨店販売は、外出自粛の影響により、売上が大きく減少。
- コンビニエンスストア販売は、感染症の影響により、冷凍食品等が堅調であるものの、足下では来客数が減少。
- ドラッグストア販売は、感染症の影響により、マスクや除菌商品のほか飲食料品も好調。
- 家電販売は、パソコン等でテレワーク需要がみられるものの、外出自粛の影響により、足下では来客数が減少。
- 新車販売は、感染症の影響による来客数の減少等により弱い動きとなっている。
- なお、財務局のヒアリングによると、足下では、外出自粛の影響により、運輸業のほか、宿泊・飲食等のサービス業で弱い動きとなっている。

### （生産活動）※10地域（東北、関東、北陸、東海、近畿、中国、四国、九州、福岡、沖縄（観光））で「下方修正」

- 輸送機械（自動車）は、感染症の影響により、サプライチェーンの乱れや国内外の需要の落ち込みがみられ、急速に減少している。
- 生産用機械は、半導体製造装置等が堅調な一方、自動車向け工作機械等の生産が減少し、おおむね横ばいとなっている。
- 電子部品・デバイスは、車載向けが減少しているものの、5G関連の需要が堅調であり、おおむね横ばいとなっている。
- なお、財務局のヒアリングによると、足下では、世界的な需要減少等による生産活動の停滞が多くの業種へ広がっている。

### （雇用情勢）※全11地域において「下方修正」

- 雇用は、完全失業率が低水準で推移するなど、改善してきた。しかしながら、足下では感染症等の影響により、宿泊などのサービス業等で求人数が減少しているなど、一部で弱い動きとなっている。
- なお、財務局のヒアリングによると、足下では、需要回復後の人手不足を見越し、雇用調整助成金を活用して雇用維持に努める企業がある一方、感染症の影響が長期化した場合は、非正規社員の契約更新を見送る動きが広がるなど、先行きには十分注意する必要。

# 全国財務局の管内経済情勢報告のポイント④

## 【参考3】各地域の個別項目の比較

### 「個人消費」

### 「生産活動」※沖縄は「観光」


### 「雇用情勢」

	前回 (2年1月判断)	今回 (2年4月判断)	基調 比較	前回 (2年1月判断)	今回 (2年4月判断)	基調 比較	前回 (2年1月判断)	今回 (2年4月判断)	基調 比較
北海道	緩やかに回復している	新型コロナウイルス感染症の影響により、一進一退の状況にある	↓	弱含んでいる	弱含んでいる	→	着実に改善しており、人手不足感が広がっている	改善してきたが、新型コロナウイルス感染症の影響が懸念される	↓
東北	緩やかに回復している	新型コロナウイルス感染症の影響により、弱い動きとなっている	↓	一進一退の状況にある	弱含んでいる	↓	改善している	改善のテンポが緩やかになっている	↓
関東	回復しつつある	新型コロナウイルス感染症の影響により、弱含んでいる	↓	足踏みの状況にある	足踏みの状況にあったが、新型コロナウイルス感染症の影響により、足下で減産の動きが広がっている	↓	改善している	改善のテンポが緩やかになっている	↓
北陸	緩やかに拡大しつつある	新型コロナウイルス感染症の影響により、弱い動きとなっている	↓	横ばいの状況にある	弱含んでいる	↓	着実に改善しており、依然として人手不足感が強い状況にある	改善しているものの、一部に弱い動きがみられる	↓
東海	回復している	感染症の影響により、スーパーやドラッグストア販売が増加している一方、百貨店や乗用車販売のほか、旅行などサービス消費を中心に厳しい状況がみられ、全体としては足下で急速に減少している	↓	高水準ながら弱含んでいる	感染症の影響により、足下で急速に減少している	↓	労働力需給が引き締まっている	感染症の影響により、幅広い業種で求人減少がみられる	↓
近畿	緩やかに回復している	新型コロナウイルス感染症の影響により、急速に減少している	↓	回復のテンポが緩やかになっている	新型コロナウイルス感染症の影響により、減少している	↓	一層の改善が進んでいる	改善しているものの、新型コロナウイルス感染症の影響がみられる	↓
中国	回復しつつある	新型コロナウイルス感染症の影響により、足下、弱い動きとなっている	↓	回復の動きに一服感がみられる	弱まっている	↓	着実に改善しており、人手不足感が引き続き強い状況にある	改善してきたが、足下、新型コロナウイルス感染症の影響がみられる	↓
四国	回復しつつある	新型コロナウイルス感染症の影響により、弱含んでいる	↓	一部に弱い動きがみられるものの、緩やかに回復しつつある	足踏みの状況にある	↓	改善しており、人手不足感が続いている	改善していたが、新型コロナウイルス感染症の影響がみられる	↓
九州	回復しつつある	新型コロナウイルス感染症の影響により、弱い動きとなっている	↓	緩やかに拡大しつつある	新型コロナウイルス感染症の影響により、弱い動きとなっている	↓	改善しているなかで、人手不足感が強い状況が続いている	改善していたが、新型コロナウイルス感染症の影響がみられる	↓
福岡	回復している	新型コロナウイルス感染症の影響により、一部で急速に下押しされ、足下減少している	↓	横ばいの状況にある	新型コロナウイルス感染症の影響により、減少している	↓	改善している	改善してきたが、足下、一部に新型コロナウイルス感染症の影響がみられる	↓
沖縄	拡大している	新型コロナウイルス感染症の影響により、弱含んでいる	↓	拡大している	新型コロナウイルス感染症の影響により、悪化している	↓	改善している	改善していたが、新型コロナウイルス感染症の影響がみられる	↓

# 各局の総括判断①

	前回 (2年1月判断)	今回 (2年4月判断)	基調 比較	総括判断の要点
北海道	<u>緩やかに回復している</u>	<u>新型コロナウイルス感染症の影響により、経済活動が抑制され、足下では観光で悪化がみられるなど、極めて厳しい状況にある</u>		個人消費は、百貨店販売などで新型コロナウイルス感染症の影響により前年を下回っているなど、一進一退の状況にある。生産活動は、弱含んでいる。雇用情勢は、改善してきたが、新型コロナウイルス感染症の影響が懸念される。観光は、新型コロナウイルス感染症の影響により、悪化している。
東北	<u>回復しつつある</u>	<u>新型コロナウイルス感染症の影響により、経済活動が抑制されるなか、足下で大きく下押しされており、厳しい状況にある</u>		個人消費は、新型コロナウイルス感染症の影響により、弱い動きとなっている。生産活動は、電子部品・デバイスが自動車向けなどで低調となっているほか、輸送機械が弱い動きとなっているなど、弱含んでいる。雇用情勢は改善のテンポが緩やかになっている。
関東	<u>生産に弱さがみられるものの、回復している</u>	<u>新型コロナウイルス感染症の影響により、経済活動が抑制されるなか、足下で急速に下押しされており、極めて厳しい状況にある</u>		個人消費は、スーパー販売額及びドラッグストア販売額が前年を上回っているものの、百貨店販売額が前年を下回っているほか、宿泊や飲食サービスを中心に弱い動きとなっているなど、感染症の影響により、全体として弱含んでいる。生産活動は、輸送機械、生産用機械などが増加しているものの、電気機械、化学などが減少しているなど、足踏みの状況にあったが、感染症の影響により、足下で減産の動きが広がっている。雇用情勢は、改善のテンポが緩やかになっている。
北陸	<u>拡大に向けたテンポが緩やかになっている</u>	<u>新型コロナウイルス感染症の影響により、弱い動きとなっており、足下ではさらに下押しされ、厳しい状況にある</u>		個人消費は、新型コロナウイルス感染症の影響により、ドラッグストア販売が好調となっているものの、百貨店・スーパー販売が弱含んでいることに加え、足下で観光地の入込客数が前年を大きく下回っているなど、全体では弱い動きとなっている。生産活動は、電子部品・デバイスが緩やかに持ち直しつつあるものの、生産用機械が弱含んでいるほか、金属製品が弱まっていることなどから、全体では弱含んでいる。雇用情勢は、改善しているものの、一部に弱い動きがみられる。
東海	<u>拡大の動きに一服感がみられる</u>	<u>新型コロナウイルス感染症の影響により、経済活動が抑制されるなか、足下で急速に下押しされており、極めて厳しい状況にある</u>		新型コロナウイルス感染症の影響により、個人消費は、旅行などサービス消費を中心に厳しい状況がみられ、全体としては足下で急速に減少している。生産活動は、輸送機械を中心に減産の動きが広まるなど、足下で急速に減少している。こうしたなか、雇用情勢は幅広い業種で求人減少がみられる。

## 各局の総括判断②

	前回 (2年1月判断)	今回 (2年4月判断)	基調 比較	総括判断の要点
近畿	緩やかに拡大しつつある	新型コロナウイルス感染症の影響により、経済活動が抑制されるなか、 <u>足下で急速に下押しされており、極めて厳しい状況にある</u>		新型コロナウイルス感染症の影響により、個人消費は百貨店販売や旅行取扱等を中心に急速に減少しており、生産活動も電気・情報通信機械等が低下しているなど減少している。雇用情勢は改善しているものの、新型コロナウイルス感染症の影響がみられる。
中国	生産に弱さがみられるものの、 <u>緩やかに回復している</u>	新型コロナウイルス感染症の影響により、経済活動が抑制され、 <u>足下で急速に下押しされており、厳しい状況にある</u>		個人消費は、百貨店販売や家電販売が低調であるなど、新型コロナウイルス感染症の影響により、足下、弱い動きとなっている。生産活動は、化学や鉄鋼が減少していることに加え、新型コロナウイルス感染症の影響により、足下、輸送機械が減少しているなど、弱まっている。雇用情勢は改善してきたが、足下、新型コロナウイルス感染症の影響がみられる。
四国	緩やかに回復している	新型コロナウイルス感染症の影響により、経済活動が抑制され、 <u>足下で下押しされた状況にある</u>		個人消費は、新型コロナウイルス感染症の影響により、スーパーが弱含んでいるほか、百貨店や観光などが低調となっていることから、全体としては弱含んでいる。生産活動は、輸送機械や窯業・土石で持ち直しに向けた動きに一服感がみられ、化学は足踏みの状況にあることから、全体としては、足踏みの状況にある。雇用情勢は、改善していたが、新型コロナウイルス感染症の影響がみられる。
九州	緩やかに回復している	新型コロナウイルス感染症の影響により、経済活動が抑制されるなか、 <u>足下で急速に下押しされており、厳しい状況にある</u>		個人消費は、百貨店・スーパー販売は前年並みとなっており、コンビニエンスストア販売は堅調に推移しているものの、新型コロナウイルス感染症の影響により、足下で急速に下押しされ、弱い動きとなっている。生産活動は、感染症の影響により、足下で下押しされ、弱い動きとなっている。雇用情勢は、有効求人倍率が高水準で推移するなど改善していたが、感染症の影響がみられる。
福岡	回復している	新型コロナウイルス感染症の影響により、経済活動が抑制されるなか、 <u>足下で急速に下押しされており、厳しい状況にある</u>		個人消費は、ドラッグストア販売額などが前年を上回っているが、百貨店・スーパー販売額、旅行取扱高などが前年を下回っているなど、新型コロナウイルス感染症の影響により、一部で急速に下押しされ、足下減少している。生産活動は、自動車国内向けとも減少しているなど、新型コロナウイルス感染症の影響により、減少している。雇用情勢は、有効求人倍率が高水準で推移するなど改善してきたが、足下、低下しており、一部に新型コロナウイルス感染症の影響がみられる。
沖縄	拡大している	新型コロナウイルス感染症の影響により、経済活動が抑制され、 <u>足下では観光で悪化がみられるなど、極めて厳しい状況にある</u>		個人消費は、百貨店・スーパーやコンビニエンスストアは、外出自粛等により来店客数が減少しているなど、新型コロナウイルス感染症の影響により、弱含んでいる。観光は、入域観光客数が減少するなど、新型コロナウイルス感染症の影響により、悪化している。雇用情勢は、有効求人倍率が高水準で推移するなど改善していたが、新型コロナウイルス感染症の影響がみられる。

# 各局の先行き

## 今回（2年4月）

	今回（2年4月）
北海道	先行きについては、新型コロナウイルス感染症の影響による極めて厳しい状況が続く見込みであり、さらなる下振れリスクにも十分注意する必要がある。
東北	先行きについては、新型コロナウイルス感染症の影響による厳しい状況が続く見込みであり、さらなる下振れリスクにも十分注意する必要がある。
関東	先行きについては、感染症の影響による極めて厳しい状況が続く見込みであり、さらなる下振れリスクにも十分注意する必要がある。
北陸	先行きについては、新型コロナウイルス感染症の影響による厳しい状況が続くことが見込まれ、さらなる下振れリスクにも十分注意する必要がある。
東海	先行きについては、新型コロナウイルス感染症の影響による極めて厳しい状況が続く見込みであり、さらなる下振れリスクにも十分注意する必要がある。
近畿	先行きについては、新型コロナウイルス感染症の影響による極めて厳しい状況が続く見込みであり、さらなる下振れリスクにも十分注意する必要がある。金融資本市場の変動等の影響を注視する必要がある。
中国	先行きについては、新型コロナウイルス感染症の影響による厳しい状況が続くと見込まれる。また、新型コロナウイルス感染症が内外経済を更に下振れさせるリスクに十分に注意する必要がある。
四国	先行きについては、新型コロナウイルス感染症の影響により厳しい状況となることを見込まれており、さらなる下振れリスクにも十分注意する必要がある。
九州	先行きについては、新型コロナウイルス感染症の影響による厳しい状況が続く見込みであり、さらなる下振れリスクにも十分注意する必要がある。
福岡	先行きについては、新型コロナウイルス感染症の影響による厳しい状況が続くことが見込まれるため、同感染症が内外に与える影響に十分注意するとともに、金融資本市場の変動等の影響にも注視する必要がある。
沖縄	先行きについては、新型コロナウイルス感染症の影響による極めて厳しい状況が続く見込みであり、さらなる下振れリスクにも十分注意する必要がある。



問い合わせ先

財務省大臣官房総合政策課

東京都千代田区霞が関3丁目1番1号

Tel. 03-3581-4111 (内線) 2252, 2225

財務省ホームページ <https://www.mof.go.jp/>